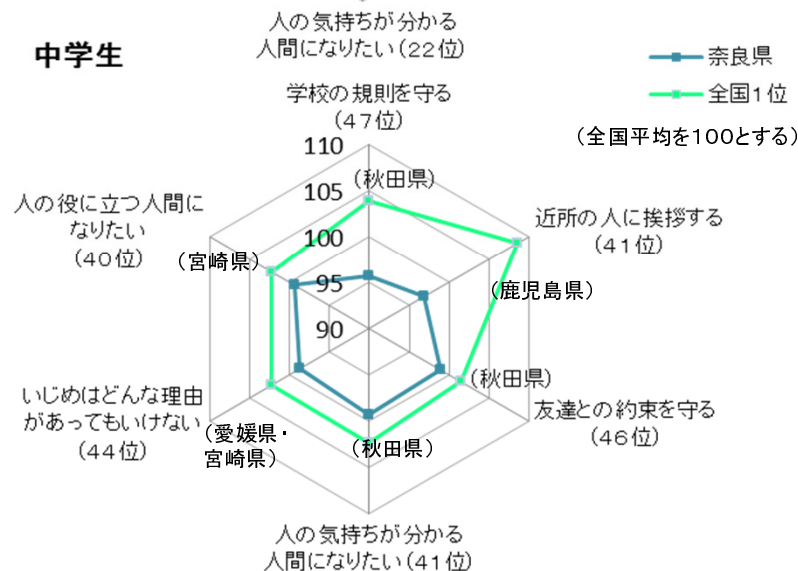
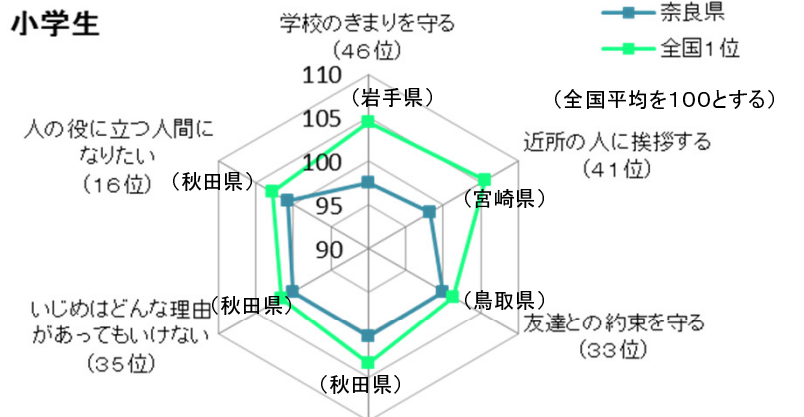


2 規範意識の醸成

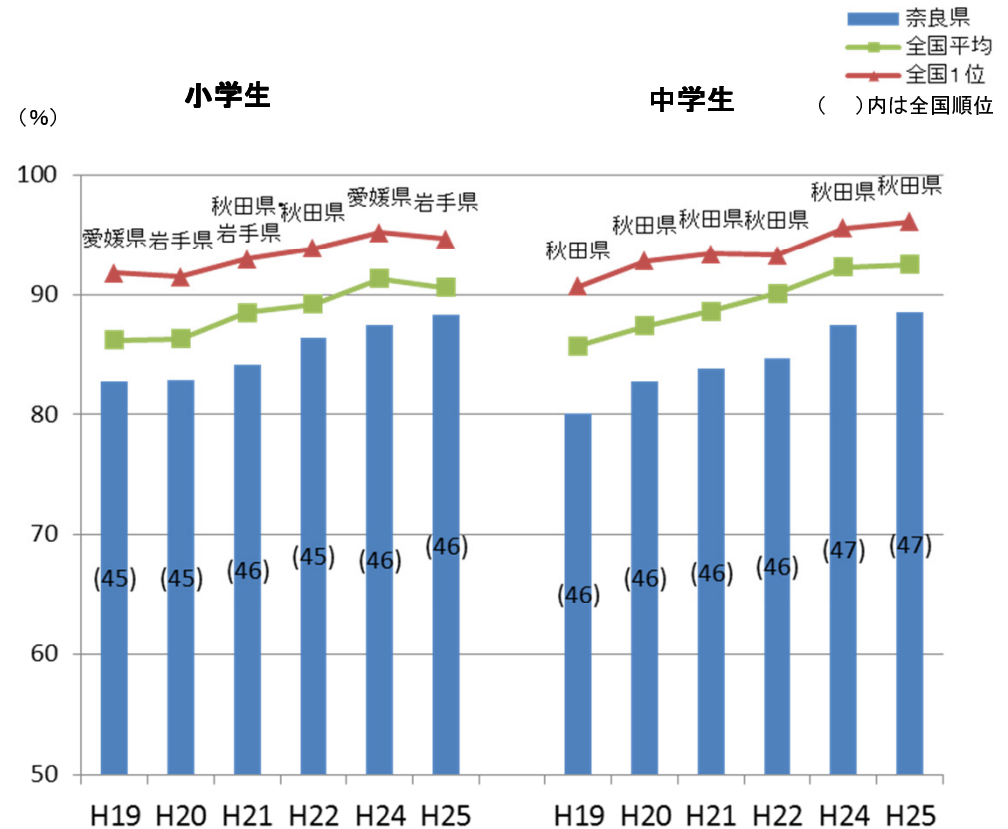
2-1 規範意識の状況

・規範意識の代表指標としての「学校のきまり・規則を守る」と回答した児童生徒の割合は小・中学生ともに増加傾向にあるが、全国的にも増加傾向にあるため、依然低位の状況である。その他の規範意識に関する項目も、低位の状況にある。

注)規範意識：広く集団生活の維持・向上のために一人一人が従うべき価値判断の基準を守ろうとする意識



「学校のきまり・規則を守る」と回答した子どもの割合の推移

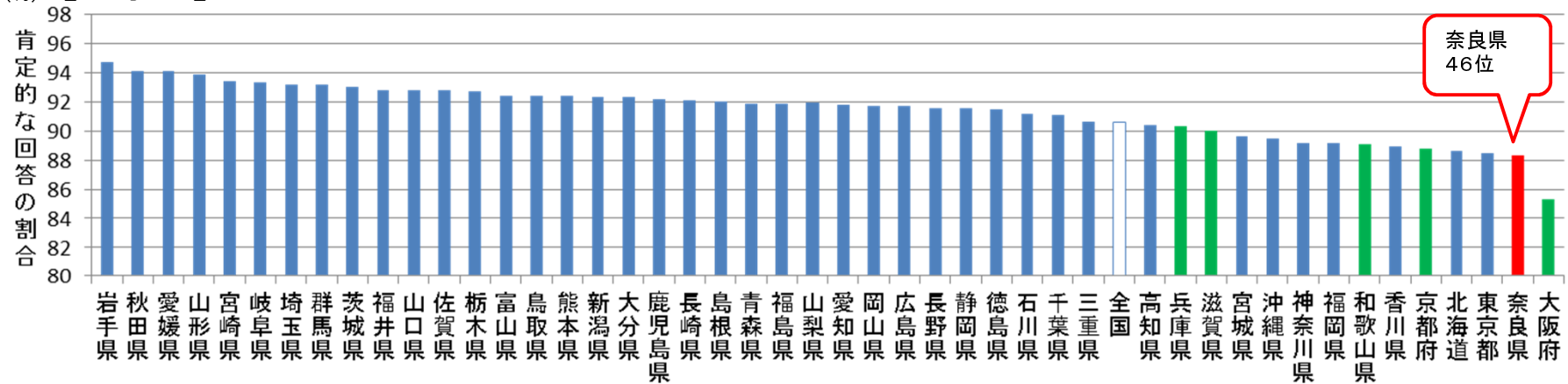


出典：全国学力・学習状況調査(文部科学省)

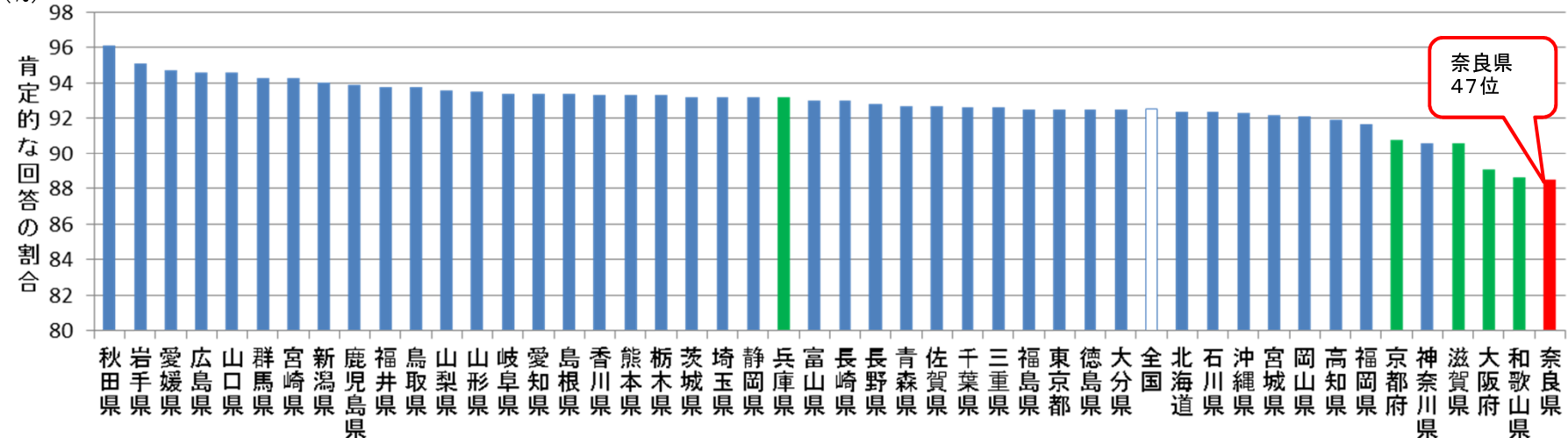
2-2「学校のきまり・規則を守る」の回答状況(都道府県別比較)

- ・「学校のきまり・規則を守る」と回答した児童生徒の割合は、都道府県別にみると、奈良県は小学生46位、中学生47位である。
- ・岩手県、秋田県、愛媛県が小中とも上位を占めている。また、近畿府県はいずれも低い。

(%) 【小学生】



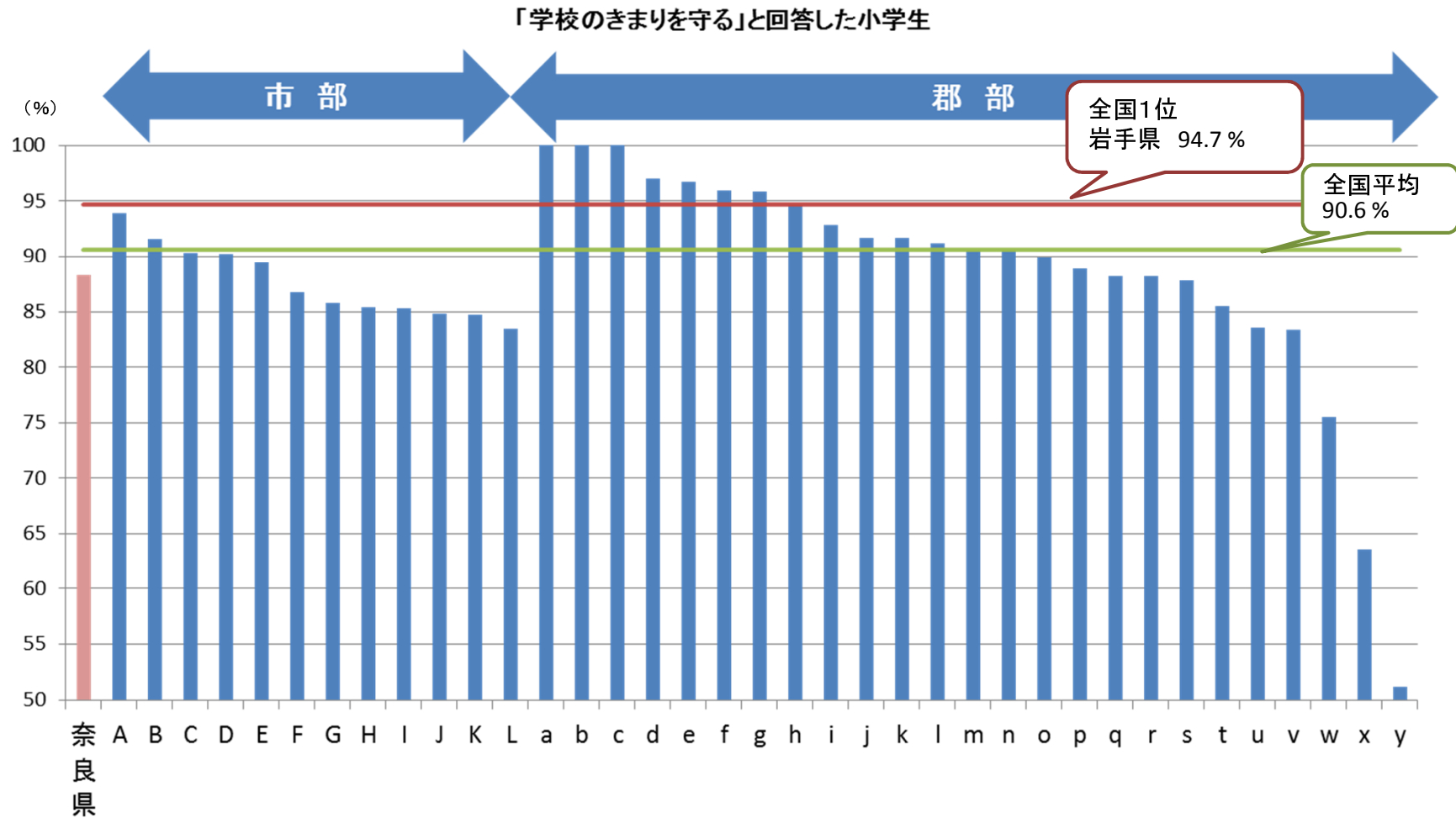
(%) 【中学生】



2-3 「学校のきまりを守る」の回答状況(団体別比較)(小学生)

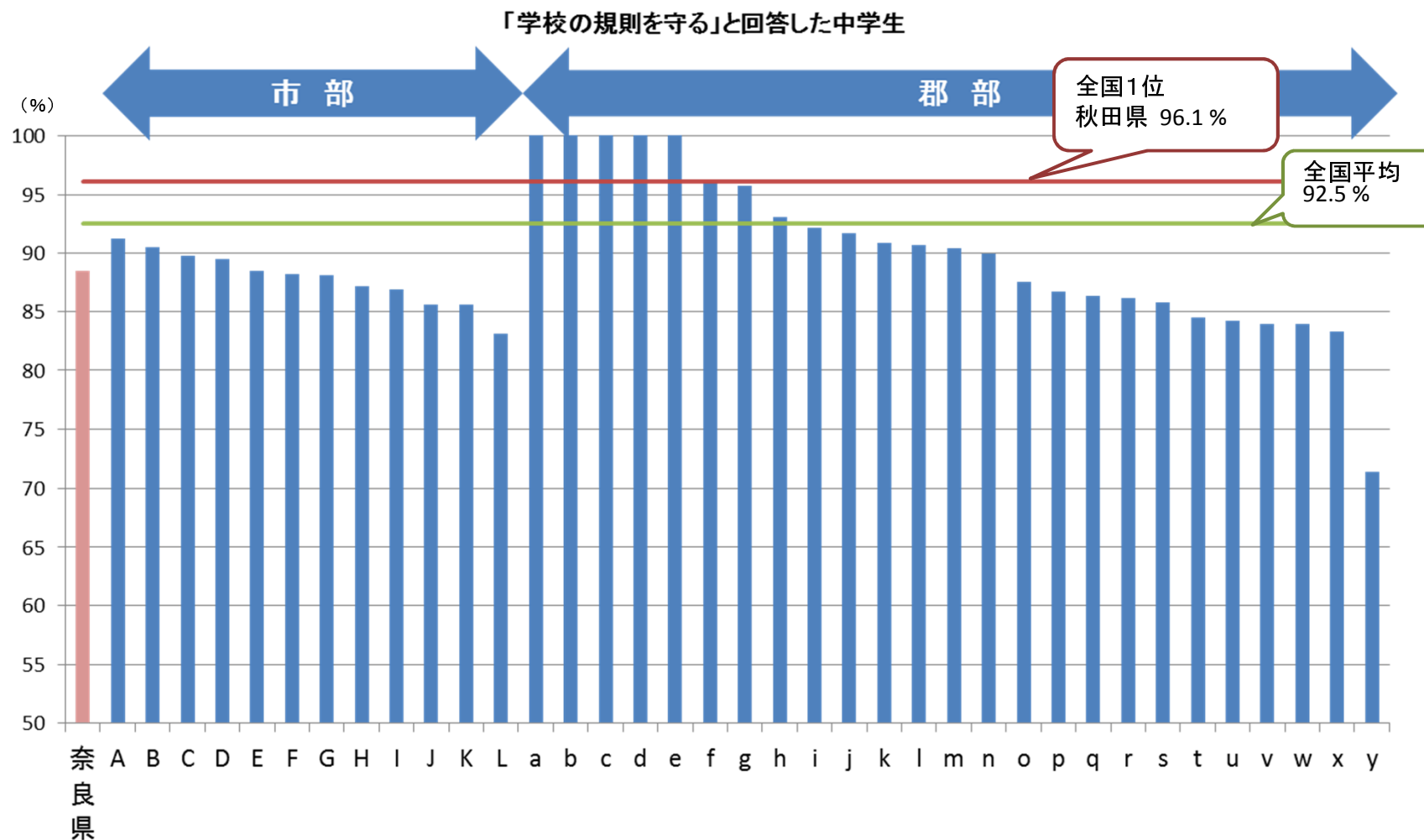
・「学校のきまりを守る」と回答した児童の割合を団体別にみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち2団体、郡部では25団体のうち12団体、全体で37団体のうち14団体である。

注)児童数が3人以下の2団体は除外している。



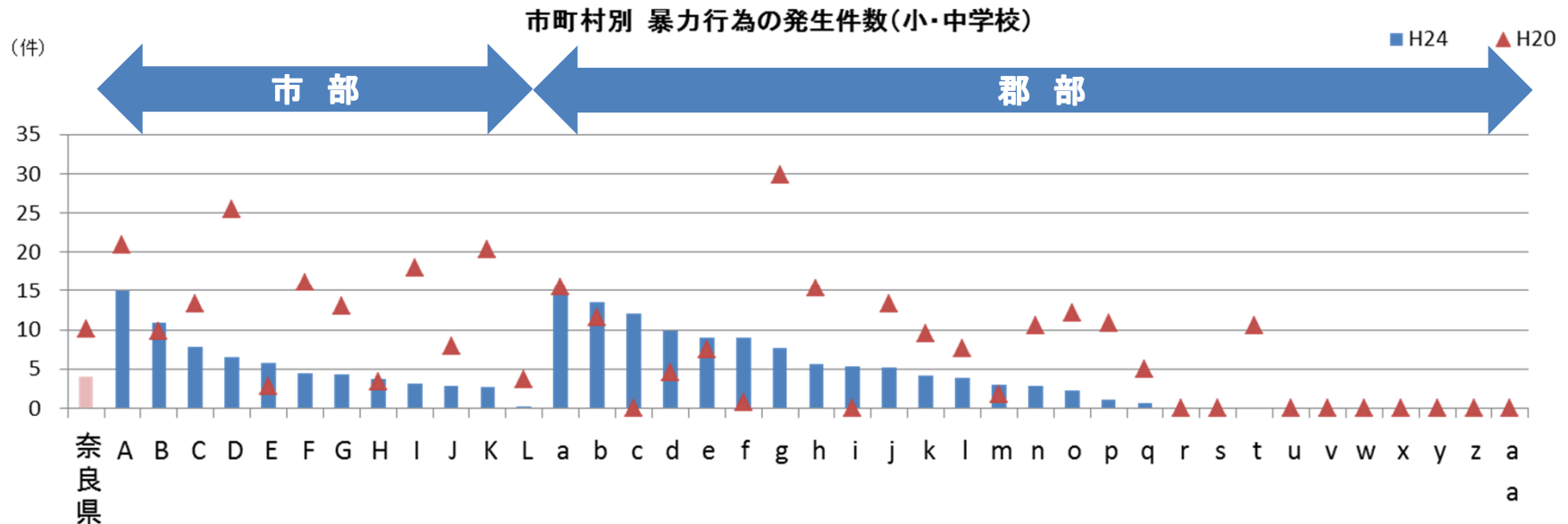
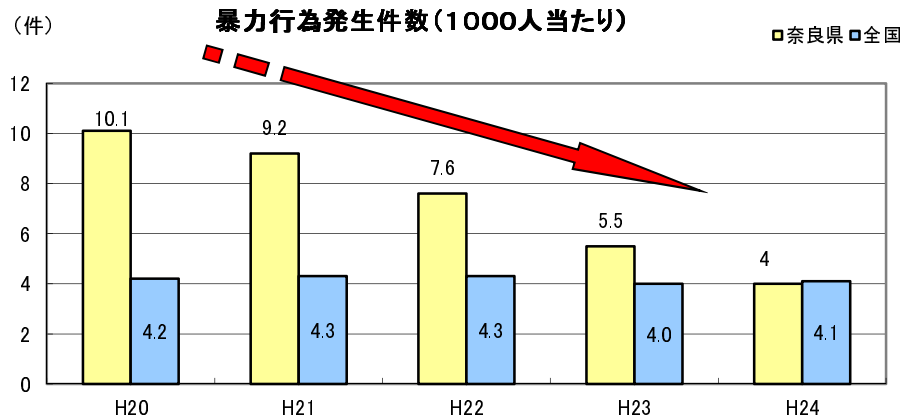
2-4 「学校の規則を守る」の回答状況(団体別比較)(中学生)

- 「学校の規則を守る」と回答した生徒の割合を団体別にみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち0団体、郡部では25団体のうち8団体、全体で37団体のうち8団体である。
注)生徒数が3人以下の1団体は除外している。



2-5 参考:暴力行為の発生件数

・規範意識と密接な関係にある暴力行為発生件数(1000人当たり)についてみると、平成20年度は全国平均の2倍以上の高い水準であったが、その後減少し、平成24年度には全国平均以下となっている。



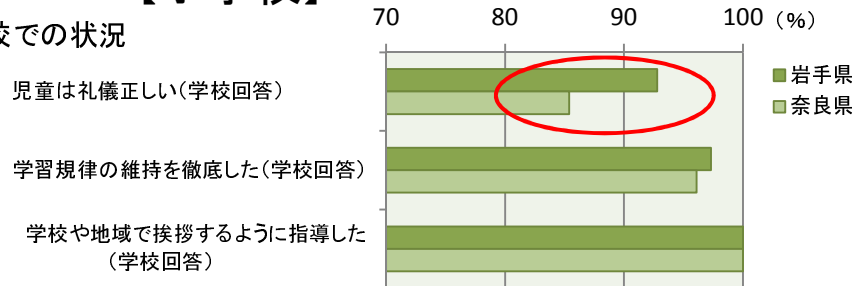
出典:児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)

2-6 「学校のきまり・規則を守る」全国1位・岩手県・秋田県との比較(相違が顕著な項目)

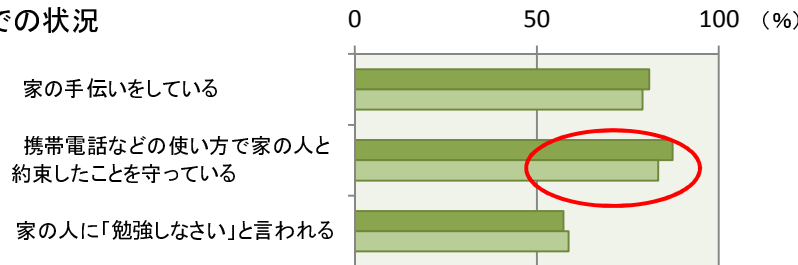
- ・全国1位の県は、児童生徒が礼儀正しいと感じている学校が多く、また、学校において規律やマナーに関わる指導が徹底されている。また、家庭でのルールを守っている割合も高い傾向がうかがえる。
- ・地域での状況についても、全国1位の県は、地域行事への参加や地域への関心など地域との関係が比較的強い傾向にある。

【小学校】

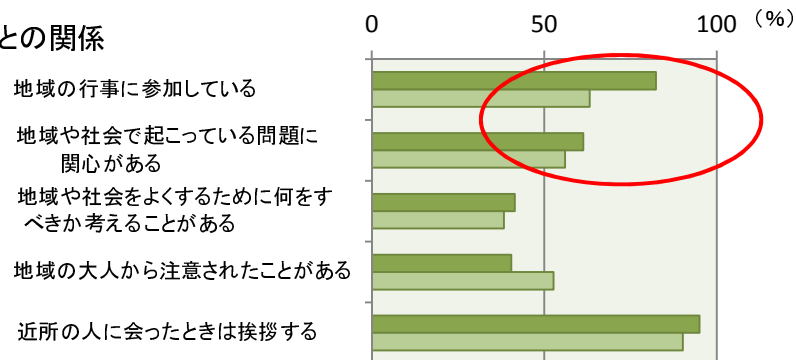
学校での状況



家庭での状況

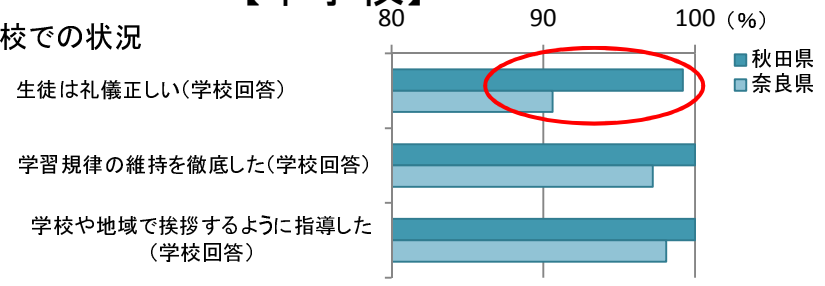


地域との関係

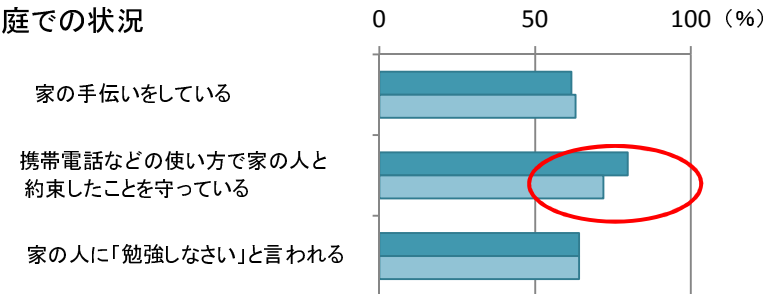


【中学校】

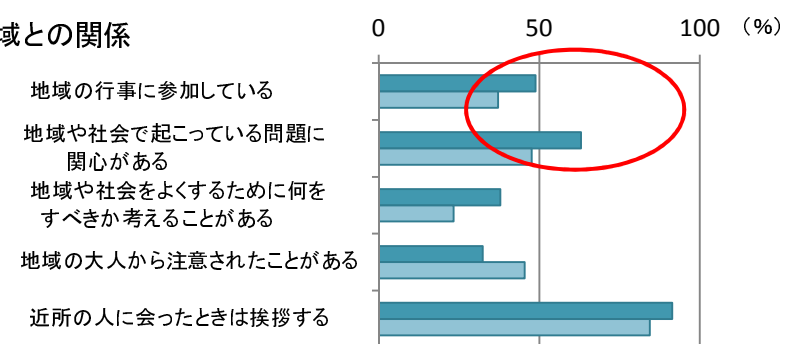
学校での状況



家庭での状況

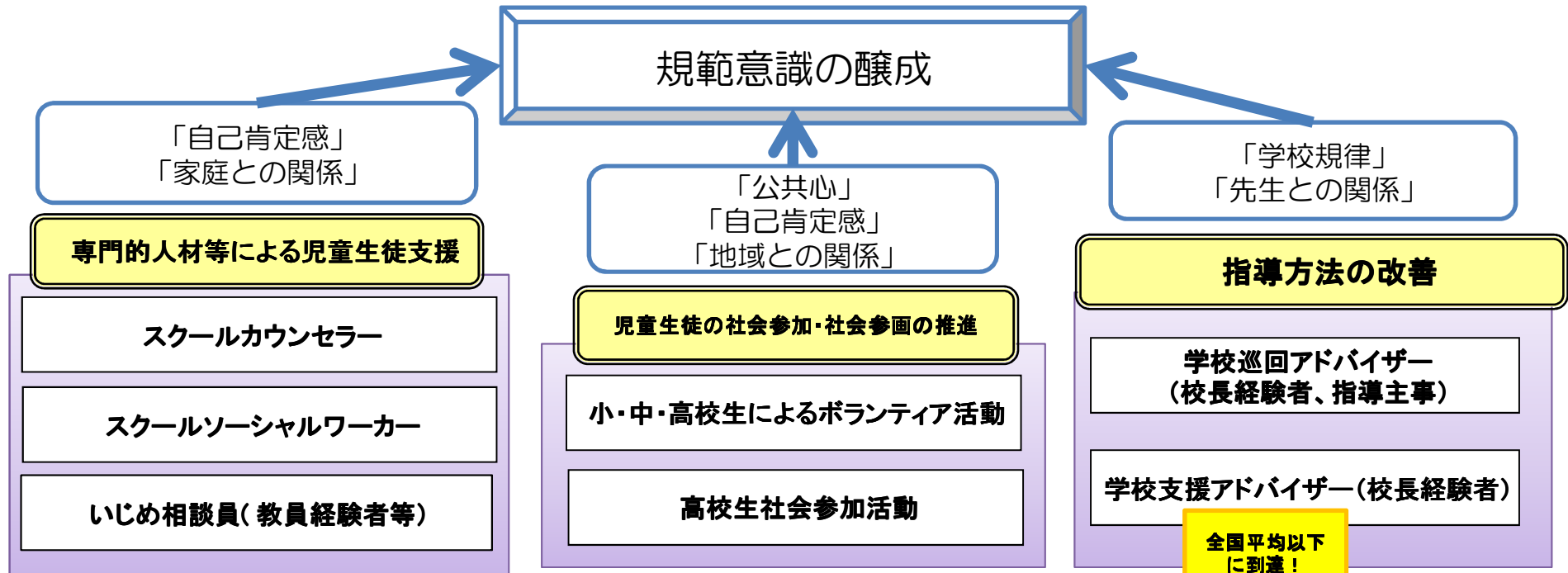


地域との関係



出典: 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

2-7 参考:規範意識の醸成に向けた県の取組



暴力行為の状況 (1000人当たり)	H20	H21	H22	H23	H24	H25 (調査中)
	10.1人	9.2人	7.6人	5.5人	4.0人	
児童生徒の社会参加・社会参画の推進	高校生社会参加活動 生徒会連絡会等					
学校への指導・助言	学校支援アドバイザーの派遣					
専門的人材等の派遣	スクールカウンセラーの配置 スクールソーシャルワーカーの派遣 学校サポーターの配置					

全国平均以下に到達!

2-8 規範意識の醸成に向けて

- 学校や社会のきまりやマナーを守ることの意義を理解させ実践させることは、子どもの規範意識や社会性を醸成する上で、極めて重要である。学校においては、家庭でのしつけや基本的な生活習慣などの家庭教育との連携を図りながら、子どもの規範意識の醸成に向けて取り組む必要がある。
- 学校・家庭・地域が連携して子どもを育てるという機運をより高めることにより、地域教育力の向上を図り、地域の大人や地域社会との適切な関わりにより規範意識の醸成に取り組むことも効果が期待される。(地域と共にある学校づくり)

※ アメリカの社会学者T・ハーシは、個人と集団や社会との社会的な絆(ソーシャル・ボンド)が強くなればなるほど、犯罪や問題行動等を抑制することができることを提唱している。

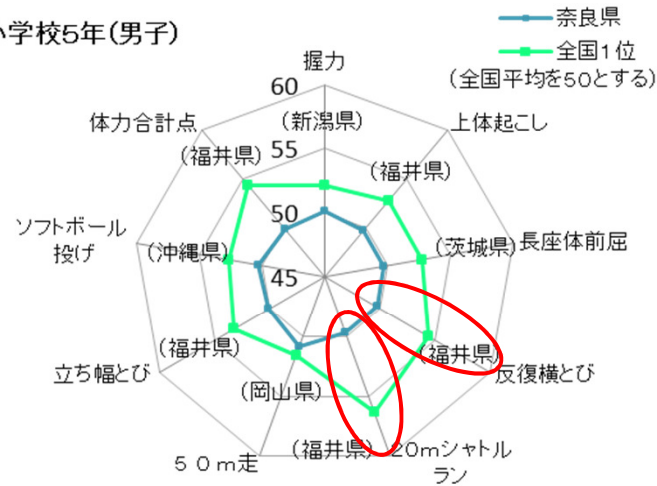
3 体力の向上

3-1 体力の状況(小学生)

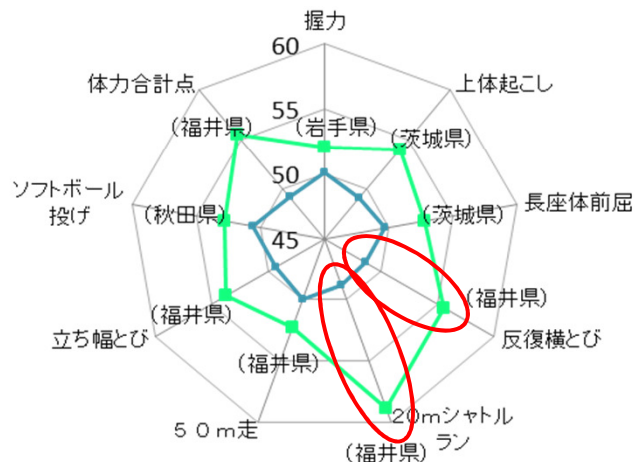
- ・小学生の体力は、体力テストの体力合計点で見ると、男子、女子とも低位にあったが、改善の傾向にある。
- ・全国1位との差は、男子で3.92点、女子で5.31点の差がある。種目別にみると「20mシャトルラン」「反復横とび」の差が大きく、持久力や敏捷性に課題がみられる。

注)体力合計点:10点×8種目=80点

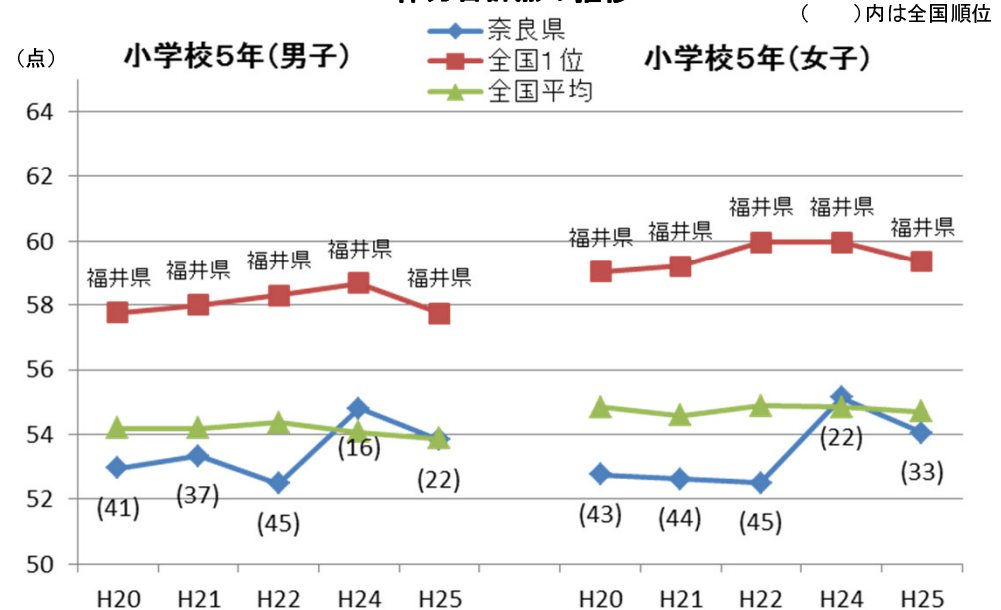
小学校5年(男子)



小学校5年(女子)



体力合計点の推移



男子	体力合計点	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
奈良県	53.82	16.65	19.34	32.48	41.2	50.79	9.3	152.3	23.45
全国1位	57.74	17.44	21.16	34.91	44.87	64.67	9.23	158.76	25.37

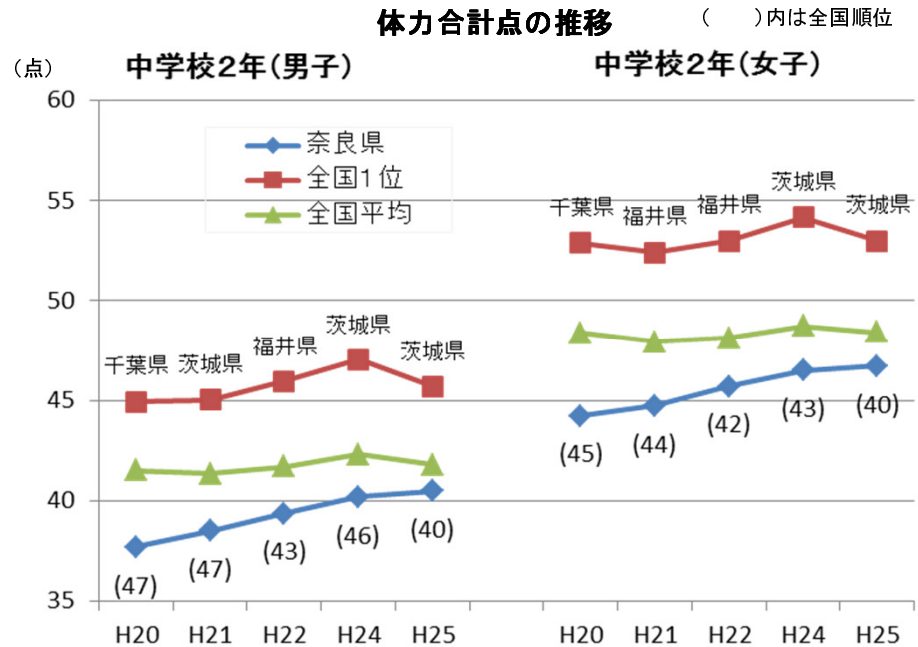
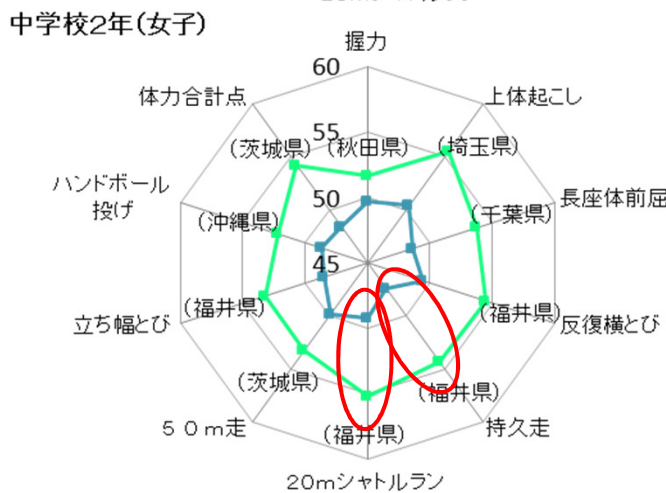
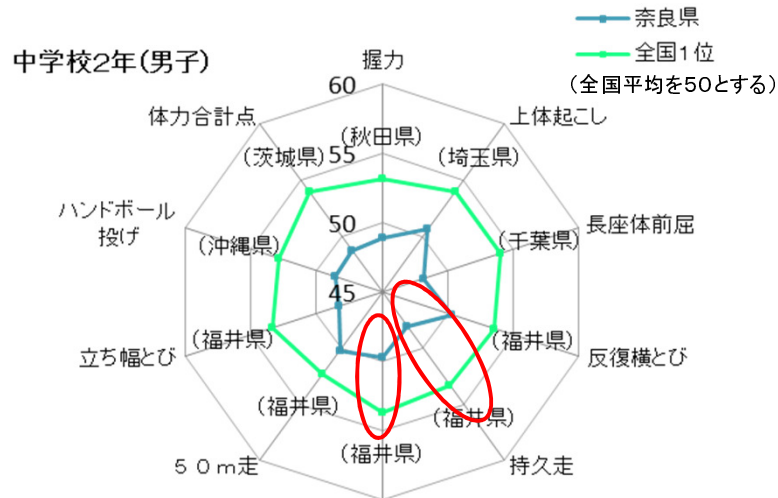
女子	体力合計点	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
奈良県	54.04	16.19	17.59	36.59	38.03	37.72	9.65	143.14	14.21
全国1位	59.35	16.93	20.16	39.15	43.06	54.1	9.46	152.06	15.31

出典:全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)

3-2 体力の状況(中学生)

- ・中学生の体力は、体力テストの体力合計点でみると、男子、女子とも改善傾向にあるものの、依然低位にある。
- ・全国1位との差は、男子で5.21点、女子で6.29点の差がある。特に男子、女子とも「持久走」「20mシャトルラン」の差が大きく、全身持久力に課題がみられる。

注)体力合計点:10点×8種目=80点(持久走、20mシャトルランはいずれか選択)



男子	体力合計点	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 1000m (秒)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
奈良県	40.48	28.45	27.97	41.31	51.31	406.19	84.25	8.02	189.13	20.23
全国1位	45.69	31.45	30.01	47.21	53.83	372.93	93.82	7.85	202.56	22.57
女子	体力合計点	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 1000m (秒)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
奈良県	46.71	23.61	23.25	43.8	44.85	304.61	55.66	8.9	162.5	12.43
全国1位	53	24.51	26.17	48.75	48.23	273.15	67.63	8.62	173.93	13.83

出典:全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)

3-3 体力合計点(都道府県別比較)

・小・中学生の体力について、H25男女総合体力合計点を都道府県別にみると、奈良県は小学生29位、中学生42位である。福井県、茨城県が小中とも上位を占めている。また、近畿府県は、総じて低い。

注)男女総合体力合計点:男子・女子の体力合計点を相加平均したもの

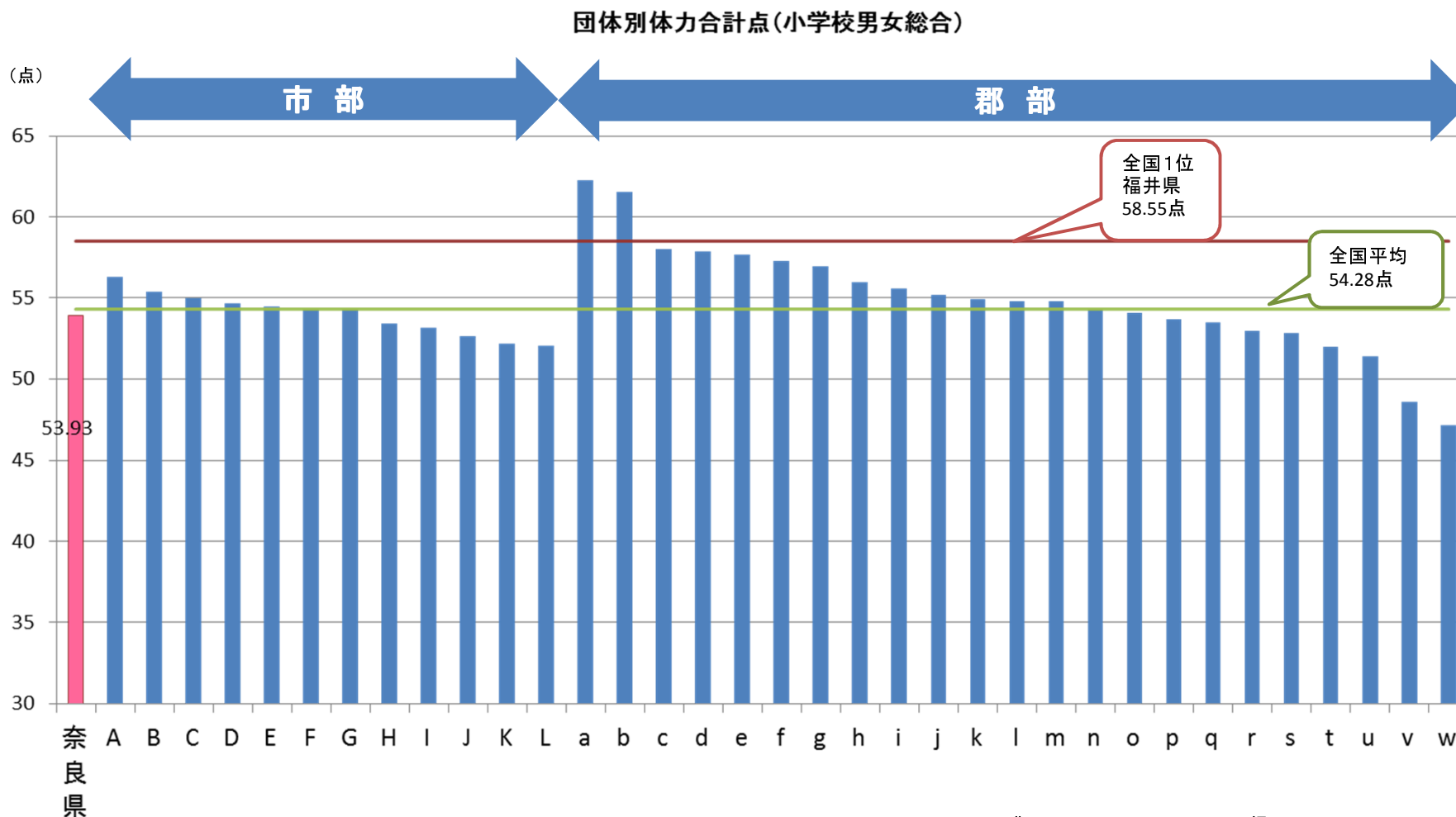


3-4 団体別体力合計点(小学校)

・団体別の男女総合力合計点をみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち5団体、郡部では23団体のうち13団体、全体で35団体のうち18団体である。

注1)男女総合力合計点:男子・女子の体力合計点を相加平均したもの

注2)児童数が3人以下の2団体及び男子又は女子児童数が0人の2団体は除外している。



3-5 団体別体力合計点(中学校)

・団体別の男女総合力合計点をみると、全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち2団体、郡部では22団体のうち11団体、全体で34団体のうち13団体ある。

注1)男女総合力合計点:男子・女子の体力合計点を相加平均したもの

注2)生徒数が3人以下の2団体及び男子又は女子生徒数が0人の2団体は除外している。

団体別体力合計点(中学校男女総合)

